



第95号

発行日：2025年4月1日
 発行：特定非営利活動法人 おおつ環境フォーラム
 (大津市地球温暖化防止活動推進センター)
 住所：〒520-0047大津市浜大津四丁目1番1号明日都浜大津4階
 電話：077(526)7545
 フォーラムHP：https://eco-otsu.net
 Eメール(事務所)：forum@eco-otsu.net



<事務局長から> 万物が躍動する好季節、継続指定を受けた大津市地球温暖化防止活動推進センター4期目がスタートいたしました。今年度は全国ネットの補助金を申請しないため、地球温暖化防止活動推進関連の事業は一層の工夫が必要となり、一丸となって取り組んでいかねばなりません。その他各事業も順次始動するなか、皆様のご支援ご協力を重ねてお願い申し上げます。

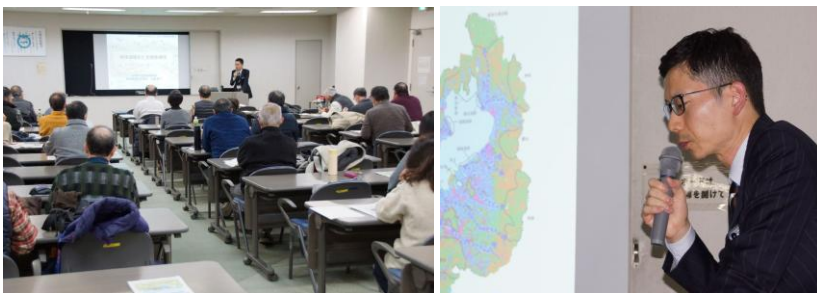
会員数111名 (2025年3月末現在)

トピックス

○ おおつ市民環境塾講座10「地球温暖化と生物多様性」を開催しました

2月8日、おおつ市民環境塾2024講座10「地球温暖化と生物多様性」を、滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課長の水嶋周一氏を講師にお迎えして開催し、前日からの降雪で公共交通網が乱れるなか26人が参加されました。

滋賀県には1万種を超える生物が、うち琵琶湖には2,400種が生息しています。



琵琶湖は400万年の歴史を有する古代湖で、固有種が60種以上も記録されています。滋賀は、生きもののすみかとして多様な自然環境があり、生物多様性の宝庫といえ、人は豊かな自然の恵みを受けてきました。しかし、「開発や乱獲などの人間活動」「自然への働きかけの縮小」「人間が持ち込んだ侵略的外来種」「地球温暖化による気候変動」などにより多様性が損なわれつつあります。県は、自然・人・社会の三方よしをうたう「生物多様性しが戦略2024」で産官学個人の役割や目標を定め、取組認証制度などが動き始めました。一方、地球温暖化による気候変動により、台風被害、農産物の品質低下、琵琶湖の全層循環未完了などの影響が出てきています。自然環境の変化に対して様々な具体的な対策がとられていますが、根本原因である気候変動を抑制することが急務です。県は、2050年「CO2ネットゼロ」を目指してCO2ネットゼロ社会づくり推進計画を進めています。ネットゼロ実現に向けて家庭での省エネ化、再エネ導入を支援するため、電気自動車購入、太陽光発電・蓄電池導入、住宅の断熱改修などへの補助金などがあります。みんなで「CO2ネットゼロ」社会を目指しましょう。

○ 大津市地球温暖化防止活動推進センターの指定証を受領しました

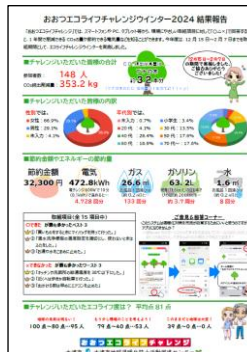
おおつ環境フォーラムは、大津市地球温暖化防止活動推進センター(大津市センター)の指定団体に第4期(2028年度末まで)も引き続き指定され、3月4日、大津市センター事務所において指定証の交付を受けました。これまで同様、大津市センターとして、深刻化しつつある地球温暖化を防止するために市民や事業者の皆さんと協働して、さまざまな講座・イベントの開催、啓発資料づくりなどを通じ、環境保護や再エネ・省エネの普及、啓発に取り組みます。



○ エコライフチャレンジ2024年度キャンペーン実績

お金をかけずに実行できる省エネ・温暖化対策として、チェックシートを用いた「おおつエコライフデー」をウェブ版に発展させた「おおつエコライフチャレンジ」のサイト(https://otsu.ondanka.net/eco-lifeday/)を2023年2月から開設・公開しています。スマートフォンやパソコン、タブレット等から、環境にやさしい取り組み15項目に対して○△×で回答すると、1年間で削減できるCO2排出量やエネルギー量、家計支出がわかります。

年間を通じて開設しているものですが、2024年度は夏冬計2回のキャンペーン期間を設けました。夏の「おおつエコライフチャレンジ サマー2024」は7月15日から9月15日(小学生向け期間を含む)まで実施し、のべ906人のみなさんに参加していただき、CO2排出量を877.8kg減らすことができました。(結果報告書; https://otsu.ondanka.net/?p=6897)



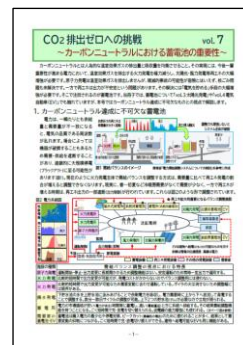
冬の「おおつエコライフチャレンジ ウィンター2024」は、12月15日から2月7日まで実施し、のべ148人が参加され、CO2排出量を353.2kg減らすことができました。(結果報告書；<https://otsu.ondanka.net/?p=7096>)

「環境保全のため」、「家計の節約のため」等、きっかけは人それぞれかもしれませんが、エコなライフスタイルについて考え、未来の地球を守る取り組みにチャレンジをお願いします。

○ 脱炭素啓発小冊子「CO2排出ゼロへの挑戦」Vol.7を発行

2021年度から継続発行している小冊子「CO2排出ゼロへの挑戦」(各号A4判4ページ)は、2024年度にVol.7を発行することができました。Vol.7は「カーボンニュートラルにおける蓄電池の重要性」として、蓄電池が果たす役割について解説しています。カーボンニュートラル達成には、今後一層重要性が高まる電力において、温室効果ガスを排出する火力発電を極力減らし、太陽光・風力発電等再エネの大幅増強が必要です。しかし、再エネは出力が自然任せのため不安定で、また需要の変動に合わせられないという問題があり、その解決には「電気を貯める」手段の大幅増強が必要で、そのことについて解説しています。

既刊号を含め、入手ご希望の皆さまに無償でお渡しします(送料はご負担ください)ので、右記までお問い合わせください。 ☎ 077-526-7545 ✉ info@otsu.ondanka.net



プロジェクト等からの活動報告・お知らせ

《生ごみリサイクルプロジェクト》

3月21日に市民活動センターで生ごみ堆肥化資材EMボカシづくりを実施し、4人で6個づくりしました。

《ビオトープづくりプロジェクト》

2月2日朝、北大路どろんこことぶの補修作業をしました。寒い朝でしたが氷は張っていませんでした。コナラやクヌギの落ち葉が至る所に積もっており、池に流入する水路には大量の落ち葉が詰まっていた。除去して水の流れを回復させることができました。

3月23日、春日山ビオトープ池でヒメガマの根を掘り、流入水路の整備をしました。その後、会議を開いて2025年度の年間計画を話し合いました。



《里山保全プロジェクト》

3月14日、春日山公園にてササユリ再生作業を行いました。毎年ササユリの種を近くの自生地で採取し、数か月後に湿らせたバーミキュライトに混ぜてチャック付きポリ袋に入れ室内で保管し発根させます。翌年にプランターに地植えし、さらに何度か植え替えを繰り返して球根を育てます。昨年の自生地でのササユリの花の付きは平年並みでしたが、種付きは一昨年以上に悪く、種まで生育したものは数株に過ぎませんでした。うち2株分の種を袋時きました。過年度採種株は植え替えです。昨年2月に地植えした2022年採種株の球根は探すのに苦労するくらい小さいですが、地植え3回目となる2019年採種株の球根は径5~6cmに育ちました。これらを植え替えたプランターを自生地の傍において作業は完了です。



■これからのフォーラム活動 (本文に記載の計画は省略)

プロジェクト等の名称	日時	場所・内容
プロジェクト		
子どもが遊べる川づくり	4月 23日(水) 9:00	吾妻川上流//水生昆虫調査の自主研修
	5月 日程調整中	三田川中・下流//晴嵐小学校学習支援活動
生ごみリサイクル	4月 18日(金) 9:00	市民活動センター//生ごみ堆肥化資材EMボカシづくり
ビオトープづくり	4月 20日(日) 9:00	北大路どろんこことぶ//補修整備、草刈
里山保全	4月 5日(土) 10:00	春日山公園//例会
	4月 20日(日) 10:00	春日山公園//例会
	5月 3日(土) 10:00	春日山公園//例会
エネルギー	4月 1日(火) 10:00	大津市センター//定例会議
	4月 19日(土) 14:00	螢谷自治会館//螢谷自治会出前講座
	5月 13日(火) 10:00	大津市センター//定例会議
委員会・実行チーム		
全体事業実行チーム	5月 1日(木) 13:45	北大路3丁目自治会館//北大路3丁目自治会出前講座

* 大津市センター；大津市地球温暖化防止活動推進センター (明日都浜大津4F)